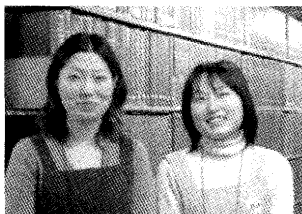


2008 年度「情報検索能力試験」に合格して (その1)

2008 年度に実施された「情報検索能力試験」に合格された方の感想文をいただきましたので、ご紹介いたします。

◆ 2 級合格者



藤井かおり (左)
黒川 晴菜 (右)
大阪府立
特許情報センター

私たちは、国内外の知財情報を収集し、調査環境を提供する機関で司書として勤めています。日頃の主な業務は、所蔵資料の利用案内です。利用者それぞれの目的にあった調査手段を案内しています。また、案内のための資料整備、検索のためのマニュアル整備も行っています。

知財情報のメディアの変化に伴い、私たちの扱う情報の範囲も広がりました。マニュアルな調査、いわゆる紙資料の手めくり調査からパソコンを使ってのデジタルな調査に広がり、CD/DVD-ROM 資料、最近ではインターネット上のデータベースが主たる調査対象となりました。しかし、調査方法が変化しても調査の重要性が変わることはなく、利用者からは、どの調査方法をとれば効果的な調査ができるのか、探している答えを得るにはどの情報に当たればよいのか、より高度な調査方法を知りたい、抽出したデータが何を意味するかを知りたいなど幅広い質問が寄せられるようになってきたと感じます。

デジタルな調査では何でも簡単に答えが出てくるわけではなく、紙と同様、収集し提供するデジタル情報の作成方法、収集方法、提供方法、調査方法などを正確に知ることが、調査目的を満たす答えを導き出すのに一番の近道ではないかと思えます。

情報検索を案内する者として、調査方法の多様さやその仕組みを知ることによって利用者の役に立てればと思い、今回この試験を受けました。

受験に備えて、まず、テキスト『情報検索の知識と技術』の通読を何度か繰り返しました。そして、昨年 9 月に開催された「サーチャー講座 21」を受講しました。講座では、講師の方々が作成されたボリュームのある資料が配布されました。資料は、要点などが分かりやすくまとめられており、その後の試験勉強や過去問の出題傾向を把握することに大いに役立ちました。加えて、インターネット上の IT 関連の用語辞典や会誌『情報の科学と技術』など、テキストには載っていない最新の情報にも目を通すことを心掛けました。

日頃の業務では、質問者に対する確認事項の順序や内容を意識し、調査手順や方法などの記述問題に備えました。

試験勉強の途中で、出題範囲の広さに途方に暮れること

や記述問題の対策に悩むこともありましたが、職場の身近な所に、同じく受験を考えている人がいたことで、時には刺激を受けながら、不安を解消することができました。

今後は、この度の 2 級合格を出発点として、継続して勉強を続けてゆきたいと考えています。

◆ 2 級合格者



織田 光一
奈良大学大学院文学研究科
文化財史料学専攻

私は現在、大学院生になりましたが、研究している内容は、情報系の勉強ではなく、古文書の保存・修復について研究しています。ついでに、大学時代はというと、壇ノ浦合戦について研究していました。こんな私がなぜ情報検索応用能力試験を受験することになったのかというと、大学時代に司書資格を取得する課程で受講した講義で、この試験のことを知り、レポートや論文を作成するにあたって、この分野を勉強していたほうが有利であると感じるようになったからです。また、講義を担当した講師・大学の教授・アルバイト先の図書館職員の強いすすめもあり、この試験を受験することを決めました。

2 級に合格できた最大の要因は、サーチャー講座 21 を受講したことであったと思います。講座を受講して特に収穫となったのは、講座で配布されたテキストの存在でした。テキストの内容については、2 級対応テキストの内容をより詳細にして、要点をまとめた 2 級対応テキストの応用編・テキストの最新版といった感じですが、このテキストと 2 級対応テキストを併用した学習、また過去問で実践力をつけたことで、試験の前半部に対応できたと感じています。また、試験の後半部については、実施経験の不足という難点をどう克服すればいいのか講師に教えてもらい、それをもとにテキストの練習問題や過去問を解くことでカバーしました。今思えば、テキストの練習問題や過去問の解答で略になっている部分についてもこの時に聞いておけば、もっと要領のいい学習が行えたのではないかと思います。

試験勉強については 2 級対応テキストである『情報検索の知識と技術』、講座で配布されたテキスト、過去問を用いて行いました。まず、2 級の対応テキストで基礎的な知識を身につけるため、1 度目は内容をざっと読み、2 度目は分からない用語を調べながら読み、3 度目でようやく内容

の把握ができてきたので、これに練習問題を加えて勉強を進めていきました。そして、基礎的な知識が身についたところで、今度は、講座で配布されたテキストを用いて、基礎的な内容を復習しながら応用的な部分、特に暗記をすれば得点が見込める IT 分野とデータベースの分野を中心に勉強し、最後に、実力がどれくらいついたのかを確認するためにも過去問を解き試験に備えました。

以上の成果により、私は 2 級に合格することができましたが、2 級を取得したからといって終わりにするのではなく、さらに知識と技能を磨いて 1 級を目指したいと思います。そして、将来的には、この資格と大学院で学んでいることをうまく生かせるような場で働けるよう、日々精進していききたいと思います。

◆ 基礎合格者

金島 毅

近畿大学法学部法律学科

情報検索基礎能力試験を受験するきっかけは、大学の司書課程内で開講されていた「専門資料論・同演習」という講義を受けたことでした。

私は今まで様々な資格を取りましたが、その大半は独学ばかりでしたので、担当講師の方に質問でき、試験対策の情報をいただけたのがとてもありがたく感じました。

個人的にコンピューターの資格をいくつか取得しているおかげもあり、試験範囲のパソコン分野での学習はあまり苦には感じませんでした。

また、ネットサーフィンにどっぷりと浸かっていたこともあり、情報検索という手段に対しても少なからずの自信を持っていました。もっとも、その自信は単なる過信にすぎませんでした。

私が知っていると思込んでいた情報検索とはあくまで方法としての情報検索であり、情報検索のメカニズムであるとか、情報の定義などについては全く知りませんでした。具体的にいえば、検索サイトといえば Google か Yahoo! であり、比較的多くのサイトにヒットするから Google を使う、そんな感じでした。

講義中にデータベースの検索の講習を経験し、国内の主要な検索サイトをほぼ網羅することで、以前より効率よく的確な情報を取得できるようになりました。

さらに実習の一環として、学校に内在する図書館で各専門分野の二次資料の現物に触れ課題作成に挑むことで、二次資料の機能を実感することも大きな経験となりました。

こういった実体験に基づいた学習は必ず力となりますので、これから本試験への挑戦を考えている方も参考書にかじりつくだけでなく、体で覚える学習法もぜひ実践してください。

情報検索基礎能力試験を合格した今、次の目標として応用力試験 2 級に挑戦してみたいと思います。さらなるスキルアップを決めたのは、情報科学技術協会主催の祝賀会に参加させていただいたおかげです。

その席で協会会員や他の合格者の方々との意見交流をしていく上で、学習のためのモチベーションを高めていくことができたからです。これから受験を考えている方も、試験に合格した際には祝賀会へのご参加をお勧めします。

「大学で何を学んだかではなく、今の自分に何ができるのか。

企業は君たちにそれを求めている」

これは就職活動に関するセミナーで、講師の方が私達学生に強く主張された言葉です。

自分にはプロのサーチャーとして必要な情報検索の知識をもっていると自負できるよう、これからも精進していききたいと思います。